
夕日の怪物

曇底コオロギ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夕日の怪物

【Nコード】

N5748A

【作者名】

曇底コオロギ

【あらすじ】

青春です。今やらずして、いつやるんだ。でも世の中不条理なんです。

世界は緩やかに、終わりを迎える。
誰も止めることは出来ないし、そんなことは誰もが分かっている。

日曜日。

学校という牢獄から解放される日。
高校二年生の松本裕也は、幼馴染であるところの三浦明奈と出かける約束をしていた。

明奈は、そのころには夕日の怪物に成り果てて居たけれど、裕也にとっては些細な事だった。

なんと言っても、デートである。

公園なんてベタな所で、明奈は喜んでくれるだろうか。

そんな事ばかりが裕也の中で渦巻いていた。

くたびれていないTシャツ。

髪。鼻毛。眉毛。ひげ。耳毛、は別にいい。パンツ。体臭。

靴は多少疲れた感じだけど、あんまりキメ過ぎてもアレだしな。

幸い天気は上々。

あとは気合だ。

今日の裕也は、一回りデカイ男だぜ。

ぽかぽかの道を、少しだけ強そうに、歩いていく。

明奈の家にはすぐに着いた。

二軒隣だからである。

玄関の前に立って、その押し慣れたインターホンを、
押した。

数瞬の永遠の後、扉が開く。

出てきたのは、明奈と明奈の母親だった。

「あら、裕也ちゃん。来てくれたのねえ。」

おばさんは笑顔だった。

「こんにちは。おばさん。」

デカイ裕也は、すっかり縮まった。

「今日はデートだつていうのに、ごめんなさいねえ。この娘こんな格好で。」

おばさんは、困った顔で明奈を見ていた。

明奈は崩れ落ちそうな歯を食いしばって立っていた。

体には茶色く染まったブラウスだかワンピースだかの切れ端が、申し訳程度に張り付いている。

「着せてもすぐに破いちゃうのよあ。まあ今日は暖かいみたいだから、大丈夫よね！」

おばさんはハハハツと声を上げて笑った。

明奈はぐるる、と言つてうつむいてしまった。

おばさんはそれを見て、さらに笑った。

「裕也ちゃん、この娘照れてるわよ。」

もう！やめてよお母さん！

明奈の「背びれ」がぶるぶる震える。その赤黒い唇から雫が垂れた。

「じゃあおばさん、そろそろ……」

「ごめんなさいねえ、ひき止めちゃって。楽しんで来てね」

「はい。じゃあ、行つてきます。」

おばさんは、絶対の笑顔を貼り付けて、二人を見送った。

夕日の怪物になったところで、明奈は明奈だった。

恥ずかしがり屋で、無邪気で、傷つきやすい、女の子。

公園までの道のりで裕也は色々な話を話した。

将来の不安、ひたすらくだらないギャグ、友達の噂、二人の思い出。その度に明奈は、ぐるるとうなったり、背びれを震わせたり、時にはがあが笑ったりした。

公園のベンチでアイスまで食べた。

「こういうのって、良くあるよな？」

明奈はやっぱり恥ずかしがりで、うつむいて、顔中にアイスを付けたまま笑ったのだ。

タンポポみたいなのに、ひっそり笑ったのだ。

裕也は確信した。

デートは成功だ。

公園には、すっかり人氣が無くなっていた。

少しずつ弱まる日差しが、二人の気持ちを鎮めて行く。

何度目かの沈黙。

不快ではない、ふわふわした沈黙。

「何か」の可能性を秘めた、天文学的沈黙。

デートは緩やかに、終わりを迎える。

誰も止めることは出来ないし、そんなことは裕也も分かっている。だからこそ裕也の胸は、爆発するぐらい高鳴っている。

あとは気合だ。

「なあ明奈」

ぐるぐる。その怪物は恥ずかしがり屋だった。

うつむいて、背びれを揺らして、

その瞳に裕也が映ったとき

「好きだよ」

夕日が町を焼いていく。
公園を真っ赤に焼いていく。
そのベンチの上の二人を。

どこかで夕日の怪物が吠えた。

共鳴するみたいに、その遠吠えはどんどん広がっていく。

世界中が、真っ赤な激情の叫びで満たされていた。

明奈は飛ぶように立ち上がり、全身を震わすように、吠えた。
裕也も立ち上がる。

その顔は、どこまでも笑顔だ。

そしていつまでも、夕日に叫ぶのであった。

（後書き）

何かの暗喩だとか、裏テーマがあるとかではないです。青春物にな
ってたら幸いです。
アドバイス等あったらお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5748a/>

夕日の怪物

2010年10月20日18時56分発行